

学 科		作業療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		解剖学Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		昼間部2年		学期及び曜時限	前期	教室名	教室及び4F基礎医学実習室
担 当 教 員		左 明					
実務経験とその関連資格		1986年医科大学卒業後(医学学士)、医科高等専門学校で教員として9年間勤務、統計学や栄養学などの科目を担当。 2000年、神戸大学医学研究科で医学博士号を取得。 2003年から3年間、受託研究員として、大阪大学大学院歯学研究科に在籍、コメディカルの解剖教育に役立つ教育方法を確立。 医療系専門学校の講師として、看護学科・理学療法士学科・作業療法士学科・視能訓練士学科・言語聴覚士学科・柔道整復師学科・鍼灸師学科などの解剖学・解剖生理学を22年間担当、現在に至る。 日本解剖学会会員。 「早わかり解剖学ハンドブック」など医学の専門書を6冊ほど監修や執筆(単著・共著)					
《授業科目における学習内容》							
作業療法士にとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。 神経系の構成と機能を説明できる。 内臓系と感覚器系の構成と機能を説明できる。							
《成績評価の方法と基準》							
1. 定期試験:基本は100%。ただし、「2～4」の項目で増減する。 2. 小テスト:90点以上の場合、一回に付き2ポイントを定期試験にプラス。ただし、100点に達するまで。 3. 課題についての発表:正しく発表できた場合、一回に付き1ポイントプラス。ただし、60点に達するまで。 4. 授業態度が悪い場合、一回に付き1ポイントマイナス(10ポイントまで)。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
解剖学 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 野村 嶧編 医学書院 早わかり解剖学ハンドブック 左 明著 ナツメ社							
《授業外における学習方法》							
教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。固有名詞にいては声を出して、耳で覚えること。 授業終了後に問題集と国家試験の過去問(事前配布)を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問して解決すること。積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。							
《履修に当たっての留意点》							
①知識は楽にして身に付かない。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要。 ②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなるよ。 ③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れない。本気にプロを目指しているのであれば、頑張れ！							
授業の方法	内 容				使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	中脳・橋・延髄の構成と機能を説明できる。			解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること	
	各コマにおける授業予定	中枢神経系(四)脳幹:中脳・橋・延髄			模型		
第2回	授業を通じての到達目標	小脳と脊髄の構成と機能を説明できる。			解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること	
	各コマにおける授業予定	中枢神経系(五)小脳・脊髄					
第3回	授業を通じての到達目標	髄神経の区分、構成(前根・後根・前枝・後枝)と機能を説明できる 脊髄神経の一般構造を図示できる。			解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること	
	各コマにおける授業予定	末梢神経系(一)脊髄神経 その1:脊髄神経全景 頸神経叢					
第4回	授業を通じての到達目標	頸神経叢の構成、頸神経叢の皮枝と筋枝の分布を説明できる。 腕神経叢の成り立ちを図示でき、かつ、それを説明できる。			解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること	
	各コマにおける授業予定	末梢神経系(二)脊髄神経 その2:腕神経叢の成り立ち					
第5回	授業を通じての到達目標	腕神経叢・胸神経・腰神経叢の分枝とその走行、分布を説明できる。			解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること	
	各コマにおける授業予定	末梢神経系(三)脊髄神経 その3:腕神経叢の分枝、胸神経 腰神経叢					

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	仙骨神経叢の分枝とその走行、分布を説明できる。 皮節(デルマトーム)とは何かを理解し、代表的な皮節を説明できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	末梢神経系(四)脊髄神経 その4:仙骨神経叢 デルマトーム		
第7回	授業を通じての到達目標	神経線維種類により脳神経の分類、脳神経核の位置を概説できる。 各脳神経の走行・分布(機能)、及び機能異常を説明できる。 視覚伝導路を図示でき、かつ説明できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	末梢神経系(五)脳神経 I～VI		
第8回	授業を通じての到達目標	各脳神経の走行・分布(機能)、及び機能異常を説明できる。 聴覚と平衡覚の伝導路を略説できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	末梢神経系(六)脳神経 VII～X II		
第9回	授業を通じての到達目標	伝導路とは何かを理解できる。 痛覚・温度覚、触覚・意識的固有感覚の伝導路を図説できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	伝導路(一) 上行性伝導路		
第10回	授業を通じての到達目標	皮質脊髄路を図示でき、かつ説明できる。 皮質脊髄路と皮質延髄路の違いを説明できる。 反射弓と関連痛を自己学習できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	伝導路(二) 下行性伝導路 反射弓と関連痛		
第11回	授業を通じての到達目標	呼吸器系の働きと構成を概説できる。鼻腔、副鼻腔、喉頭の主な構造、左右の気管支の違いを図示できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	呼吸器系(一): 気道		
第12回	授業を通じての到達目標	肺、肺葉、肺区域と肺門、肺胞の構造を説明できる。胸膜と縦隔を略説できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	呼吸器系(二): 肺、胸膜、縦隔		
第13回	授業を通じての到達目標	口から始まり、肛門に終わる一本の消化管、その各部の構造と機能を説明できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	消化器系(一) 消化管		
第14回	授業を通じての到達目標	肝臓の外観、肝臓の組織構造、胆嚢と胆汁の分泌経路を説明できる 膵臓の外観と構成(外分泌腺・内分泌腺)、膵臓からの分泌物を列挙できる。腹膜の構造と機能、腹膜と臓器の関係を説明できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	消化器系(二) 消化腺:肝臓・膵臓・唾液腺 腹膜、腹膜と臓器の関係		
第15回	授業を通じての到達目標	腎臓の肉眼構造・顕微構造、及び腎臓の機能を説明できる。 尿路各部の構造と機能を説明できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること
	各コマにおける授業予定	泌尿器系 腎臓と尿路		